

〈編集後記〉

『月報』9月号、2007年度社会科学研究所春季合宿研究会（タイ）特集号を遅ればせながらお届けする。2007年3月、タイは日本の真夏の天候で、チェンマイとバンコク、両都市を訪問した。チェンマイでは主に一村一品運動の現状視察、バンコクでは1997年アジア通貨危機後の経済動向および現在の日タイ経済関係について学ぶことを目的とした旅行だった。

チェンマイではチェンマイ地区中小企業振興センターで一村一品運動の現状を聞き、その足で山間部へバスで移動し、いくつかの特産品を製造するアトリエを訪問した。地元での特産品をマーケットに対応する商品として再開発し、地元で労働の場を作る、そうした製作の一端を見ることができた。

バンコクではタイ中央銀行でミニシンポジウム（1997年以降の経済動向）、日系自動車企業あるいは食品企業、そしてタイ日工業大学視察と多岐にわたった。3月のタイは日本の夏のような暑い毎日だったが、総勢22人の視察は事故なく無事終了した。私は10年前、通貨危機の直後にバンコクに行ったことがあったが、その後のタイの経済発展はバンコクの風景を変えつつあった。まず地下鉄ができた。そして2サイクルの三輪タクシー（トゥク・トゥク）が走り回っていた街路は、今やメータータクシーが多数派になっていた。経済発展は中国だけではなく、インド、タイ、インドネシア、あるいはベトナムで進んでいる。しかしおそらくそれに伴うひずみと様々な問題も生じているのだろう。

この春季合宿研に関する様々な視点からする長短様々な参加者の報告は、多岐にわたったスケジュールのそれぞれの側面からのものになっているはずである。 (S.M)

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 内田 弘

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
